

第4回品質改善委員会
日本航空の事例紹介『JALグループの安全への取り組み』
および来年度委員会の活動方針について



JALグループの安全への取り組み

苦難をバネに改善へ邁進する日本航空の取り組みについて、同社安全推進本部安全企画グループ長の山口俊治氏に事例紹介をいただいた。

同社は、85年御巣鷹山のJL123便墜落事故を契機に安全管理に改めて取り組む。まず社外有識者で構成した安全アドバイザー・グループ設置。意識・組織改革、事故の教訓、コミュニケーション等を骨子とした提言書を受領。提言具現化として、代表取締役をトップとした安全推進本部設置。全社的な方針や目標設定、必要に応じ助言・支援・指示、安全情報の水平展開等の役割を持たせた。

また安全報告制度を設けたが、約6000人いる整備士からの報告が当初は月10件程度。そこで仕事

終わりに現場を廻り品質ヒヤリハットを集める安全オヤジを配置。彼らの活躍により、月200~300件の報告が上がるようになった。

その他、事故の風化を防止し社員教育に役立てる安全啓発センター設置、非懲戒方式と積極的な表彰、役員対話や記者懇談会・管制との交流会などコミュニケーション向上等々に取り組み、トラブル数は徐々に減少している。

会社全体が高い安全意識の維持向上を継続するための新たな試みとして、「安全部門のキャリアパス化」(誰もが安全部門を経験)を目指している。

事例紹介後の質疑応答では、各委員より多数質問があり関心の高さが伺えた。

来年度の品質改善委員会の活動方針

来年度の委員会は、厳しい経済情勢下、現状の設備や人材の効率活用に重点がシフトしていることから、設備の保守・維持管理や製品寿命・経年変化、それを支える人材の品質教育・育成等を重点に企業事例を中心に展開することとなった。

また第二次中期計画の発動に伴い、特に業務品質トラブルが多い病院や学校などへ品質管理・改善ノウハウを提供することも目標に、3ヵ年ほどかけて段階的に進めることとなった。(文責事務局)